

元気が 育つ村

ぐんぐん育つ
ボクらの元気!!

2013年 下條村 村勢要覧

2-3P 村長ごあいさつ



4-5P 環境計画



6-9P 産業振興計画



10-15P 健康・福祉・医療・教育計画



16-17P 交通・通信・防災計画



18-19P 「元気が育つ村」へ
つどう人たち



20-21P 下條村120年の歩み



22-23P 下條村 MAP



下條村長
伊藤喜平

ごあいさつ

明治22年に「下條村」が誕生して以来、124年単独村として今日に至っています。その過程は決して平坦な道のりではなく、昭和33年には議会を解散し、合併問題を村民に問いかけた時もありました。平成の大合併の時には、村民の大多数の賛同を得て、平成16年2月自立宣言を行い、堅実な村政を進めております。

南信州を取り巻く環境を見ますと、リニア中央新幹線は、今秋には環境アセスメントが終了し、2027年の開業に向け工事着工の年になるうかと思えます。また三遠南信自動車道も平成24年3月には引佐北ICから鳳来峡ICまでが開通し、青崩峠道路も起工式が行われ全線開通の目途が立って来ました。

天竜公園阿智線は、狭窄した阿智村伍和工区の橋梁工事は完成し、318mのトンネル部も掘削工事が着工の運びとなりました。

日本全体が人口減少、少子化・高齢化社会に入ったなかではありますが、飯田下伊那地域は更に発展が望める、魅力ある環境が整いつつあります。

そのような中、いまだ下條村は「元気が育つ村」になっ

てきております。下條村では子育て支援の充実や生活コストの軽減など、「住み良い安全安心で魅力溢れる村」「若者定住が益々進み、お年寄りと共に暮らせる魅力溢れる村」を目指し、皆様方の一層のご協力・指導を頂きながら、「変革の時代」を地にしっかりと足の着いた政策に取り組んで参ります。



秘訣 その1 住みよい環境づくり

- ① 自然循環型社会の構築とゴミ減量化の推進
- ② 地域に根ざした住宅・宅地の供給
- ③ コミュニケーションと地域文化の構築



環境美化の推進

廃棄物の適正処理確保に向けて、ゴミの分別収集、事業廃棄物の資源化、広域連合「ゴミ処理施設の適正利用など、それぞれが意識して行動を実行しています。また、今後取り組む最終処分場の建設や、ゴミ処理負担制度の検討など、直面する問題を一つ一つ解決していく必要があります。結果的に排出された廃棄物を極力再生利用(リサイクル)して、「循環型社会」へ転換を目指していくことが重要となっています。また、犬などベットのフンや「ミ」のポイ捨てといったモラルの向上も推進していきます。

住宅・宅地の供給

平成2年〜20年にかけて、若者を対象に人口増を目標に推進してきました。平成9年度からは建設造成地が手狭間なため、集合住宅に切換え建設し、住宅入居へのニーズにも対応。また、平成20年度には企業向けの単身集合住宅を建設するなど、若者の定着を図り村の活性化をすすめています。分譲住宅地は「ニュータウンコスモス」、「おおばら」地区の分譲が順調に供給されています。今後は、現在の建物の維持修繕を行いながら、これからの入居状況も見据えた計画を行っています。

光ファイバー網

自然豊かな山々に囲まれた下條村では自然災害の際、緊急時に情報を迅速かつ的確に伝達でき、高齢化社会にも対応した親しみやすい「情報伝達システム」の整備をすることにより、安全で安心して暮らせる生活環境を確保しなければいけません。そこで、全村を網羅する光ファイバー網を利用した、ケーブルテレビシステムと超高速なインターネット接続が行えるハイブリットな情報通信基盤の環境を使って、より速い情報伝達で私たちの暮らしの安全を確保していきます。

図書館

村立図書館は平成7年7月、村中心部にある村多目的施設「あしたむらんど下條」に開設されました。村内には書店がなく、学習の場として設置を求める声が強くなり、それを裏付けるかのように、年間貸出冊数は村民1人当たり17冊で県内の公立図書館では2位と高い利用度で常にトップクラスを維持しています。また、絵本の読み聞かせなどの催しで、子どもたちの読書への関心を高めるきっかけとなっているほか、住民の交流の場として、図書館は地域文化の拠点の役割も果たしています。



カッセイカマンによる環境美化PR



建設前の大原団地



光ファイバーを利用した情報伝達システム



村立図書館



秘訣 その2 産業の振興

- ① 豊かな土地を活用した特産品づくり
- ② 交通ネットワークを活用した観光の推進
- ③ 時代とニーズに対応したプログラムづくり



伝統野菜の親田辛味大根

下條村の特産品には「信州の伝統野菜」の認定を受けた親田辛味大根をはじめ、果実のオーナー制度で収穫体験が楽しめる、梨りんごの栽培が盛んです。親田辛味大根は下條村親田（おやだ）地区で栽培され、江戸時代に尾張徳川家に献上された記録が残るほど、歴史が古く村民に守られてきた伝統野菜です。また、下條村では農家の高齢化に伴い手つかずの農地が増えています。ソバ栽培を、新たな特産品として広めようとする農業振興策と遊休農地の再利用に取り組んでいます。

特産品



道の駅「そばの城」

中央自動車道が開通して30年以上が経過し、新たに三遠南信自動車道天龍峡インターも開通しました。また、中央リニア新幹線がCルートで決定し、今後は飯田をはじめとした都市圏の強い影響を受けることとなります。村内への企業誘致、温泉を中心とした観光開発などにより、国道の交通量が近年徐々に増加していく中で、下條村の観光の表玄関として多くの利用客が訪れる道の駅「信濃路下條」を、さらに魅力ある施設になるように取り組んでいます。

観光拠点



コスモスの湯

本村はいち早く温泉開発や公園整備に取り組み、泉質が良好で露天風呂の眺望がいい、秋桜の湯が平成2年に、バター・マレットゴルフが楽しめるリフレッシュパークも平成5年にオープンしました。観光入込数も年々増加しておりますが、近隣市町村に同様の施設が整備されてきたことにより、集客数は減少傾向にあります。今後は、リフレッシュパークへの複合遊具の設置や、施設利用者のニーズに対応した改修・見直しを行っていく必要があります。さらに、新たな観光資源の発掘や、広報・周知活動を積極的に進めていくなど、新たな観光プログラムの提供を進めていきます。

観光資源



ふれあいと交流、地域の特色を生かしたむらづくり





秘訣 その3 交流の促進

- ① 新たな産業の発掘を推進
- ② 村民の自立と行政の連携の推進
- ③ 自主的な地域活動のコミュニティーを推進



阿知原に誘致企業の工場を建設

近年の工場事業所数は、平成12年から年々減少しています。これは、景気の後退、産業構造の変化により、企業統合・集約が行われた結果と推測されます。今後は、天龍峡インター開設によって工場の進出も行われ、立地条件が好転するのを生かし、事業の拡大や立地を促進していきます。さらに優れた人材が集まる環境が求められ、そのための居住環境を協力していく施策を検討していきます。また、知的・一次産業の育成など、新たな起業家を育成するといったこれまでは発想を変えた、振興策が求められています。

工業の振興



「花いっぱい運動」の苗の植え付け

本村では、すべての事業を村だけで行うのではなく、資材支給事業や地域づくり交付金などを取り入れることで、地域での取り組みが活発に行われるようになりました。現在では地域が主体となった活動が頻繁に行われています。このように、村民一人一人が自分たちで村づくり活動を継続して行えるような更なる事業や、若者から年配の方まで世代を超えて、村民の主体的・積極的な参画の拡充を今後すすめていきます。

村民による村づくり



大盛況「しもじょっ子」まつり

人口が増加傾向にある、下條村では、地域が主体となった活動が活発に行われています。自ら栽培した特産品や工芸品の販売・展示、また、図書館など既存にあるコミュニティ施設での催し物の開催。このような活動を継続して行えるような更なる事業や、今後のコミュニティ活動をより活発に行っていく施策、地域を考慮したコミュニティ施設整備の整備を図っていくことで、あらたなコミュニティ活動の促進をすすめていきます。

コミュニティ活動の推進





子育て福祉の充実

平成20年4月現在の合計特殊出生率は、長野県1・45人、全国平均1・37人であるのに対し、本村では平成16〜20年の平均が2・07人となり、県下トップです。この要因として、若者集合住宅の建設や高校生までの医療費給付事業の拡充、未満児保育等子育て支援によるものと考えられます。また、平成22年から始まった後期次世代育成支援対策推進行動計画に基づき、各種施策を進める必要があり、全国的に注目を集める本村でも、引き続ききめ細やかな対策に取り組んでいきます。

若者集合住宅

自主財源で賃貸住宅を建てた下條村では、若者を対象に入居者を増やしてきました。入居条件を「子供がいる」か「これから結婚する若者」に限定し、消防団への加入や村の行事への参加も条件に加えました。その結果、村が考える「理想の若者」が入居するようになり、村や地域が活性化し始めています。将来的に下條村に残ってもらい、地元住民と一緒に村づくりに参加し地域活動を共にしながら、地域に根づいてもらえるような仕組みづくりを今後も推進していきます。

児童教育の推進

平成19年から、信州大学工学部大下真二郎教授が開発した「思考力育成ソフト」を、いち早く学力向上の施策として導入し効果を上げてきました。また、全国的な教育課題を真摯に受け止め、子供の学校教育の現状をつぶさに検証し、国の改革の波に押し流されず、知・徳・体の三位一体の人間教育をより一層強力に推進できるよう指向していかねばなりません。そして、国際化に対応した人材の育成に向け、英語指導を充実するとともに海外研修など国際交流事業も引き続き推進していきます。

生涯学習の推進

近年、人々の自由時間の増大、高齢化社会など社会の成熟化に伴う学習需要の増大、そして情報化、国際化による産業構造の変化、社会・経済の変化に対応するための、学習ニーズが高まってきています。こうしたニーズに応えるため、①普及・啓発と情報の提供、②多様な学習機会の提供をしていくことが必要です。本村においても、村民の学習ニーズは高く、現在それに応えるべく、様々な学習機会や場の提供をしています。今後も、村民の学習ニーズを的確に把握し、よりニーズに沿った学習内容を提供していきます。



教科書に取り上げられた「子育て支援」の取り組み



村内に10棟ある「メゾンコスモス」



図書館ボランティアによる読み聞かせ



あしたむらんど下條



秘訣 その4 少子化への取り組み

- ① 下條村を“故郷”と思う教育
- ② 地域コミュニティの充実
- ③ “知・徳・体”三位一体の人間教育の推進





秘訣 その5

保健・福祉・医療の充実

- ① 専門性を活かしたサポートの充実
- ② 『もう一つの家』づくりの推進
- ③ 自分の余暇を利用した健康活動の推進



地域包括支援センター内

高齢者が住み慣れた地域で、安心してその人らしい生活を継続するために、介護サービスをはじめ、さまざまなサービスが高齢者のニーズや状態の変化に応じて、切れ目なく提供される必要があります。こうした役割を果たす総合機関として設置されたのが「地域包括支援センター」です。保健師・主任介護支援専門員などの専門職を配置し、これらの専門職が連携して、それぞれの専門性を活かしながら迅速に、協働してチームを組み、高齢者をサポートしていきます。

地域包括支援センター



下條診療所

平成14年6月に輝山会記念病院の下條診療所がオープン。保健・医療・福祉の拠点としてワンストップサービスを提供しています。今後も高齢者の自立を支援するための各事業を展開して、「心身ともに元氣な高齢者」を増やしていきます。また、介護が必要になった場合でも本人の尊厳を確保し、安心して生活していくことができるよう、介護基盤の整備、人材育成の支援、関係機関のネットワークを構築し、他職種協働を取り入れながら、診療所として、村の中核医療を担っていきます。

下條診療所



リハビリプール教室

『もう一つの家』づくりを目指し、すべての村民が気軽に利用できることを目的として建てられた『いきいきらんど下條』。床の可動が可能なプールは小学生の水泳教室を始め、若者からお年寄りまでを対象とした水中運動や高齢者のリハビリ等、健康増進に向けた多目的な利用を行っております。今後も、『いきいきらんど下條』を保健・福祉・医療の活動拠点として、また、村内医療機関との連携もさらに深めた、効率的で効果的な健康づくりに努めていきます。

リハビリプール



いきいきらんど下條



デイサービスセンター



保健センター

歴史探訪



大山田神社

500年の歴史を今に伝える

重要文化財に指定されている相殿2社殿は、室町時代(1507年)、下條氏が京都から招いた工匠によって造られたもので、当時の中央文化による和様、禅宗様の技術を用い、全体に造りが繊細で、鼻股、鼻木、妻飾りは当時の様式を伝え、県下でも数少ない社殿である。長野県自然100選にも選ばれ、280種類もの植物が繁茂しています。



平安時代末期の仏像

伊那地方には数少ない藤原期の仏像のひとつ。等身大の阿彌陀如来坐像は、定朝様(じやうちやうよう)による、珍しい一本割彫り作りの優れた作品である。この仏像を鑑定した日本国宝社の松田福太郎氏は準国宝と鑑定しました。



吉岡城・吉岡城址公園

伊那地方では最大級の城址

城址は東西約700m南北300mの楕円状で、5つの空堀と5つの郭、その下段に城下町を配備した連郭式平山城です。戦国時代初期、下條氏6代康氏が、松本小笠原氏の指示により築城し、以来7代112年間下條氏の居城として使われました。現在は、吉岡城址公園となっています。



下條歌舞伎保存会



下條中学校歌舞伎クラブ



下條村こども歌舞伎教室

下條歌舞伎保存会

昭和46年に立ち上がった下條歌舞伎保存会。それまで村内の各地域で行われてきた歌舞伎も人手不足から成り立たなくなりました。そこで親田を中心に北又、粒良脇から担い手が集ることとなりました。特色ある各地の歌舞伎はなかなか一つにまとまりませんでした。が、「歌舞伎が好き」という思いが人々を結びつけ、見事、歌舞伎をひとつにまとめあげました。

下條中学校歌舞伎クラブ

平谷村で行われたイベントがきっかけで、中学生による歌舞伎に大きな意義を感じた(故)小池恒久氏、歌舞伎保存の会長が、中学校に話を持ちかけたことから始まりました。そこからクラブ活動が発足し、現在は、歌舞伎クラブとして兼部のできる部活動として存続しています。

下條村こども歌舞伎教室

平成16年9月より、「伝統文化こども教室事業」を活用し、小学生対象の歌舞伎教室(下條村こども歌舞伎教室)を実施しました。こども歌舞伎教室に参加した子供達が中学校へ進み、歌舞伎クラブに入って活動するという良い流れが生まれています。



秘訣 その6 文化と歴史

- ① 地方文化の時代に合わせた伝統芸能の継承
- ② 若い後継者育成の推進
- ③ 特色を活かした文化の推進

下條氏の菩提寺

下條氏の菩提寺で伊那地方の名刹。臨済宗妙心寺派。本尊は聖観世音菩薩。吉岡城主であった下條時氏が、父家氏の菩提を弔うため天文5年(1536年)に創建された。薬師如来の他、室町時代の作と伝えられている数体の仏像がある。



福楽山松源寺

浄土宗智恵院派。本尊は阿彌陀如来。創建は戦国時代末期(1570年頃)。武田信玄の命により浪合の原氏の二人が小松原に城館を構えて住み、その氏寺として建てたことによる。寺宝に武田信玄の馬頭観世音菩薩とその文書がある。



下條氏

武田信玄の伊那先鋒衆として活躍。甲斐源氏小笠原氏の分派。6代康氏は松本小笠原氏の庇護を得て力を伸ばし、吉岡に城を築くなど、下條氏の基礎を固めました。9代信氏の時に、武田信玄のもとで軍功を立てたが、織田信長に追われ死亡。関ヶ原の戦後は、多くの大名家に仕え氏姓を伝えてきました。





地域戦隊カッセイカマン

秘訣 その7 人・物・情報のネットワーク

- ① マーケティング志向に立った農業経営の推進
- ② 地域総合情報ネットワークの推進
- ③ 効率改善のための交通ネットワークづくり



道の駅の充実と活用

道の駅「信濃路下條」には、「そばの城」「遊牧館」「うまいもの館」そばの館が整備され、下條村の観光の表玄関として魅力ある施設となり、多くの利用客が訪れるようになり、多くなりました。本村で採れた野菜や果物、手工芸品、女性グループで加工した商品が好評となり名産となっています。このように、「売れるものを作る」「より高い商品価値を得るものを作る」という消費者志向、マーケティング志向を育む機会となり、本村の農業経営がここを起点にして、今後も発展すると期待されています。

情報通信網の整備

オプティックの加入率が低下傾向にあるなか、平成19年度から村独自で光ケーブル網を全村に整備し、ケーブルテレビをはじめ高速ネットワークの加入率が90%となりました。また、災害時に、全村民に対して適切に広報ができるように、防災行政無線施設のデジタル化や各家庭への音声告知システムの整備を行い、緊急時に素早く対応が行えるようにしました。今後は、システムの管理運営を行うとともに、近隣市町村とも連携したネットワークづくりが必要となります。

消防・防災

消防体制については、広域的な体制づくりは進みましたが、消防団員の確保は深刻となっており、組織の見直しや、女性の団員への参加など検討する必要があります。また消火栓、防火水槽についても住宅の新設などに対応した設置や、今後想定される大地震に対応した耐震性貯水槽の設置も進めていかなければなりません。さらに、現在も多くの地すべり危険箇所などが指摘されているので、災害を最小に抑えるべく、防災体制、広域連絡体制の強化を図っていく必要があります。

村内外との交通ネットワークの形成

集落と主要公共施設、集落相互間をネットワークしている生活関連道路の整備は計画的に進められています。土木建材を平成4年から支給し、平成23年度までに2億8千万円で、442箇所を改修、効果をあげてきました。今後はさらに地域の身近な生活道路の整備や、早期改良、舗装済み道路の改良、観光開発、住宅団地造成など関連した整備もすすめていきます。さらに、リニア開通を見据えた広域的なアクセス形式を推進します。



遊牧館

うまいもの館



情報通信ネットワーク(イメージ)



消防団「操法技術大会」



住民による道路整備



古田康博さん
・昭和60年生まれ 28才
・高校卒業後2年間地元を離れていたが
下條村へ戻り家業を継ぐ

私はこの下條村で生まれ、高校卒業後2年間
地元を離れて生活していましたが、父の病気を
きっかけに下條村へ戻り家業の果樹農業を継いで、
今年で7年になります。うちの果樹園では、りんご・
なし・もも・市田柿を生産しています。また、りんご
ジュース・ニンジンジュースやジャム等の加工品
にも取り組んでいます。

そして、うちの果樹園では、収穫される果物の
より良い品質を保つため、減農薬・無化学肥料を
使用しています。また土壌づくりにも気を配り、
近所の仲間と協力して自分たちで堆肥も作って
います。そのこだわりを持って作った果物は、徐々に
ではありますが口コミでお客様も増え、大都市の
大手スーパー・全国展開をしている通販会社等でも
取り上げてもらい、販売されています。また、中京
方面からはリンゴ狩りのお客様も来ていただき
喜んでもらっています。

自分の生まれた村で 親孝行したい。

Q どうして下條村に住もうと思ったのですか？
A 妻も私も実家が飯田市にあり、いずれは戻る
つもりで神奈川県川崎市で暮らしていました。その時、
私の祖母が暮らし下條村も候補にあがっていま
した。下條村についてテレビやインターネットで
調べると、子育てに良い事ばかりだったので驚き
ました（医療費が高校まで無料）。小学校の近く
にも村営マンションがある事を知り、ここなら
祖母の様子もすぐに見られて安心だと思いました。
そして震災後、放射能など都会での子育てに不安
を感じていた私達は、下條村へ住む決意を固め、
長男が小学校入学する一年前に下條村へ引っ越し
てきました。

自然の中で暮らす。



伊東さん一家
今年、長男が入学する
下條小学校の前で
家族揃っての記念撮影



「元気が つどう 育っ村」へ 人たち

従業員の皆さんと
一緒にポーズ！



保育園の運動会



保育園の親子遠足



伊東泰成さん ・昭和47年生まれ 41才
・飯田市出身
・職業は介護福祉士

下條村の元気な お年寄りに驚き。

Q 今の下條村の「元気なところ」は何ですか？
A 子供達とカッセイカマンですね。村営マンションに
は元気な子供がいっぱい。長男の友達が「遊べる？」
と呼びに来てくれますが、都会では治安の問題で、
一人で友達の家に行かすことができません
でした。しかし、ここでは安心して近所のお友達と
毎日暗くなるまで遊んでいます。カッセイカマンは
長男も大好き。正義のためじゃなく、不況に立ち
向かうところが面白い。あとは、お年寄りも元気
ですね。下條村の長寿番付に、91歳の祖母の名前が
無く記載なしかと思いいく見たら、皆さん祖母より
も歳上だったので驚きました。

Q 下條村の「元気な明日」は何ですか？

A 下條村には、様々な伝統や文化が根付いて
います。元々舞台美術が仕事の妻は、下條歌舞伎に
入り定期公演で初舞台を踏みました。私も都合の
つく限り地域の花見や、どんど焼き、草刈り、子供の
保育園の行事に参加しています。下條村は全国的に
も名前が知られ、以前暮らしていた、川崎市の友人が
「日本一有名な村だ。」と言うほどになっています。
これからも、もっと下條村というブランドを国内外
に発信し、他国他県とも交流を深め、今後は子育て
世代のみならず全ての人が住みたいと思う村でいて
欲しいと思っています。

元気があふれる先輩たち!!

下條村で仕事の時や地域活動の中などで思う
ことは、自分よりも年上の「おじさん・おばさん」が
とっても元気だということです。働いている姿や
村内で見かけたりする姿を見ると「自分たちより先輩
だけど元気で活発だな。」と感じ、感心しています。
そして、私たちの世代は、上の世代の人たちの
ように、元気で明るく暮らせるようになりたいと
思います。それは自分たちがこの村に熱意や愛情を
もって楽しく暮らすことが、生まれ育った下條村を
元気にすることでもあると考えます。これから、
もっと若い世代や村の産業の後継者も育てていけ
たらいいなと思っています。



果樹園から見渡すことができる南アルプス
赤く染まる南アルプスがお気に入りの古田さん

下條村120年のおもな歩み

明治21年	郡長より、陽里、陸沢両村合併が出され、両村界隈無く両村總代の連署をもって合併合議する。陸沢村と陽里村が合併し、下條村となる。人口3,843人、戸数663戸。村会議員選挙が行われ、12人が当選する。初代村長に中島眞吉が就任。
明治22年	第2代村長に飯島伝造就任。
明治24年	小学校令により、陽里、陸沢、親田の3尋常小学校が発足(尋常4年まで)。本校を陽里小学校に置く。
明治26年	陽里小学校へ高等科を設置。
明治28年	第3代村長に原藤太郎就任。
明治32年	第4代村長に村沢虎吉就任。
明治33年	陸沢、親田尋常小学校に高等科を設置。
明治34年	第5代村長に幾島謙太郎就任。阿知原の福島喜男が郡会議員に選任される。この年、村に初めて自動車が入る。
明治37年	第6代村長に亀割孝就任。
明治40年	役場庁舎の新築落成。(山田河内久保田道上地籍)。
明治42年	第7代村長に塩沢幹就任。この頃、新井の下条製糸工員が200人を超し、新井の街並みが繁盛する。運送会社も誕生する。
明治43年	大山田神社、応神天皇社殿、八郎明神社殿が国の特別保護建造物の指定を受ける。近年例のない未曾有の大被害で害に大打撃。夏は干ばつで水稲、桑園大被害となる。
大正3年	第8代村長に古田増蔵就任。
大正4年	極楽入会山の和解成る。郡長石川蒼太郎、同6年10月「山論和解立碑」戸谷根に建つ。手塚原に陽里郵便局開設される。
大正5年	山田河内に下条郵便局開設する。
大正7年	下條村青年団結成される。初代団長に村沢重夫就任。
大正8年	第9代村長に伊沢謙平就任。
大正9年	晩雪、晩深霜など気候不順で農作物の被害甚大となる。特に養蚕は糸値とともに下落し、厳しい年となった。
大正10年	小学校統一となり、下条尋常高等小学校と改称。陽里、陸沢、親田はそのまま郡校となる。バス交通が飯田から下條村を走り早稲田。
大正11年	村内に電灯初めて灯もる。下条小学校校歌を制定。作詞は飯田中学校教諭手波耕作、作曲は長野師範学校教諭井上武士。
大正12年	第10代村長に川上邦蔵就任。
大正13年	下條村信用組合を設立(組合員66人)。この年、村に初めてオートバイが入る。青年訓練所が開設される(同年7月、実科中等学校に併設)。
大正15年	第11代村長に原直勝就任。
昭和2年	昭和製糸販販組合設立される。下条製糸、昭和製糸、大富製糸、大下条製糸を陽里製糸へ整理統合して、阿南製糸販販組合となる。下條村消防組組織設立される(部数7、組員59人)。
昭和3年	昭和製糸販販組合設立される。下条製糸、昭和製糸、大富製糸、大下条製糸を陽里製糸へ整理統合して、阿南製糸販販組合となる。下條村消防組組織設立される(部数7、組員59人)。
昭和6年	第12代村長に佐々木良就任。中島定雄(合原)が県会議員に当選。
昭和7年	この頃、手塚原に伊那銀行、養蚕会社大富社出張所、巡査駐在所、製材工場、鉄工場、さらに各種商店など、町並みが整う。生糸値暴落に端を発し、組合製糸大合同、南電社が発足する。女子青年団が主体となり農繁期託児所を開設(季節保育所)。
昭和8年	阿南養蚕株式会社設立される。
昭和9年	第13代村長に熊谷利古就任。
昭和10年	第14代村長に熊谷三三就任。下條村消防団設立(消防組改組)初代団長に村沢重夫就任。川上邦蔵(小松原)が長野県会議員に当選。
昭和11年	下條村国民健康保険組合設立される。大政翼賛会下條支部が発足。報国農場労働奉仕隊が満州へ送られる。村をあげて紀元2600年記念式典を行う。
昭和14年	第15代村長に村沢義男就任。下條村農繁壮年団を結成。
昭和15年	第16代村長に村沢重夫就任。この頃から、戦争遂行のため大政翼賛運動、軍事扶助海外移民、物資の増産、供出、配給制度などにより村内にも軍事色強まる。
昭和16年	下條村愛国婦人会を大日本国防婦人会と改組。第17代村長に下田健志就任。
昭和17年	7日大地震、伊那谷各地の震度3、下條村内被害甚大。
昭和18年	第18代村長に川上邦蔵就任。台風による集中豪雨のため、被害続出。特に陽里地区の牛ヶ爪、南の沢川、湯沢、郷敷沢、の流域に被害が甚大。手塚原ではそれによる犠牲者9人を出した。
昭和19年	第19代村長に中島美佐夫就任。
昭和20年	六三制実施により、国民学校を廃し、下條村立下条小学校、中学校開校する。初めての公選により第20代村長に新井岩男就任。下條村消防団設立される(現在の組織)。
昭和21年	下条実科中等学校を廃し、定時制高校として下伊那農業高校下条分校となる。同PTA発足する。下条村農業共済組合が発足する(事務所陽里地区内)。下条村農業協同組合が発立され、初代組合長に新井直人担任する。下条小中学校PTA発足する。下條村公民館開館。分館14を設置。初代館長に館林三三。
昭和22年	第21代村長に牧島忠夫が就任する(2期、34年まで)。
昭和23年	会地、唐笠嶺、県道に認定される。
昭和24年	下條村商業組合を下條村商工会と改組し初代会長に中沢健蔵就任。
昭和25年	町村合併研究会を設立。重草、泰早、大下条などとの合併が提案され、議論されたが村内を二分し結論に至らず。
昭和26年	組合製糸の天童社阿南工場(合原)閉鎖となる。農繁期保育所を村が主体となって開設(村内か所)。
昭和27年	この年、養蚕の低迷から桑を抜き小梅の栽培盛んになる。
昭和28年	下條・重草村の合併問題で議会紛糾。小学校陸沢部校が本校に統合する。一部バス通学開始。第22代村長に熊谷義蔵就任。阿南高校下条分校が陽里部校へ移転。伊勢湾台風により村内の民家、農作物が未曾有の大被害となる。親田部校、本校に統合する。
昭和29年	昭和30年
昭和30年	昭和31年
昭和31年	昭和32年
昭和32年	昭和33年
昭和33年	昭和34年

昭和35年	全村一校の歴史的な入学式、始業式行われる。小中学校パン食による完全給食始まる。有線放送電話の設置認可される。翌年1月1日から業務開始。
昭和36年	国道粒良路トンネル開工工事始まる。
昭和38年	陽里保育所が開設され、漸次陸沢は、親田で開設する。第23代村長に代田清文就任。学校プール建設工7月完成。初の消防自動車購入。山田河内分団に設置される。国道粒良路トンネルが完成する。この頃から干し柿の出荷盛んとなる。「伊那のこく柿」として重要な特産品となる。
昭和39年	ウシカ大発生。しかし米は未曾有の大豊作で集荷量9,900俵となる。
昭和40年	下條村歌謡校保存会発足する。
昭和41年	全国初めての「盲人老人ホーム」の開設が長原に完成する。国道の改良が進み、万才大橋完成する。乳幼児、重度身体障害者医療費無料化。国道小松原トンネル開通し、期成同組合が竣工式を行う。大久保の新長瀬橋完成。村の観光の玄関口となる。
昭和42年	有線放送電話自動化完成し、開通する。国道151号線南の沢橋工事着工。
昭和43年	第24代村長に村沢千冬が就任。
昭和44年	第25代村長に佐々木中が就任。
昭和45年	老人福祉センターが完成。下條村公営結婚式の第二号が誕生。下條村誌発刊される。
昭和46年	吉岡城南北大橋が完成する。
昭和47年	役場新庁舎完成。商工業の発展に伴う店舗共同化事業により、スーパー陽里ショッピングセンター開店する(合原)。
昭和48年	下條村民民グラウンド竣工。下條村商工会館落成記念式典を行う。
昭和49年	B&G海洋センター上屋付プールが竣工。村の社会体育の幅広まる。
昭和50年	農協本所(北又、生活センター)山田河内にオープン。
昭和51年	台風10号により、道路、農地、河川に大災害発生。被害甚大。この頃、公営結婚式100組となる。中学校校舎新築完成、近代的な設備により教育施設の充実成る。
昭和52年	この年、種菜林道が完成し、付近の森林資源の開発、観光化進む。
昭和53年	阿知原より温泉が湧き出され、村の活性化の夢広がる。定数2名削減の村会議員選挙行われる。粒良路自歩道車用トンネル建設工事に着工。
昭和54年	全村水道浄水場が完成。
昭和55年	飯田カントリー倶楽部の建設着工。村制100年尺玉100本打ち上げ。
昭和56年	県下初の自歩道トンネル(粒良路)開通式。村制100年記念式典。
昭和57年	下條村テニスコート完成。秋桜の湯オープン。古岡城址公園完成。
昭和58年	小学校校舎の大規模改修工事完了。
昭和59年	全村上水道事業完成。下條村総合保育所で保育始まる。下條村アイスービスセンター(光の園に併設)が開所。レスト秋桜オープン(食堂と宴会場施設)。脳刺激訓練教室始まる。飯田カントリー倶楽部オープン。台風18号と秋雨前線で各所に大被害。
昭和60年	山田河内大橋(村道23号線)完成。下條村長選挙で伊藤喜平氏が当選。
昭和61年	新井展望公園完成。小学校体育館・リフレッシュパーク下條。弓道場竣工記念式典。
昭和62年	信州博覧会館電太氏の総合司会として下條村の日盛大に開催。
昭和63年	下條村民吹奏楽団結成定期演奏会行われる。
昭和64年	森と文化のシンフォニーゾーン「あしたむらんど」下條完成。あしたむらんど下條(図書館、オープン、県と村共催の地盤総合防災訓練が中学校を主会場に行われる。2,200人参加。北又に賃貸住宅完成。人口4,000人を超える。
昭和65年	道の駅信濃路下條。遊技館竣工。国際化社会に向けて中学生海外研修スタート。オフ・トラーク下條開所。図書館の貸し出し冊数年間人口1人当たり15.9冊で県下トップ。
昭和66年	農産物加工販売ふるさと交流センターオープン。コスモスの湯百万人達成。
昭和67年	長野オリンピック1週間前イベントに2,200人参加。初の3階建て若者集合住宅(メソソコスモス完成。村制100周年記念式典と川中美幸コンサート)。
昭和68年	ニュータウンコスモス(新中原)の分譲開始。福祉バス本格運行。下條親水公園オープン。キャンプ場オープン。そばの館。墓地公園。学校給食センター完成。
昭和69年	インドアスポーツセンター完成。
昭和70年	村内で大雪65cmの降雪。大きな被害出る。保健・医療・福祉の拠点「いきいきらんど」下條オープン。学童保育所開設。小学6年生まで医療費の無料化開始。いきいきらんど下條に診療所オープン。天竜公園阿智線親田工区開通。
昭和71年	コスモホール完成竣工式典。地域戦隊「カッセイカマン」結成、イベントで大活躍。村の0歳〜14歳の人口割合17.3%。飯伊でトップ、県下で3位。
昭和72年	下條村自立(目標)宣言行。陸上競技の無料化。中学生まで拡大。村の人口35年ぶりに4,200人突破。スペシャルオリンピックコスモス長野・世界大会でシブラルタル選手団と交流。図書館開館10周年で利用者20万人達成。貸出利用率県下2位。
昭和73年	保育所で未満児用の保育室増築完成。
昭和74年	第10メソソコスモス完成。北又おおはら地籍に宅地造成完成し、分譲始まる。村議会議員選挙16年ぶりに無投票。保育料一律10%引き下げ。親田辛味大根が信州の伝統野菜に認定される。
昭和75年	保育料さらに10%引き下げ。伊藤村長5期目スタート。
昭和76年	雇用対策用集合住宅完成。情報通信基盤整備事業で全戸光ケーブル敷設によりケーブルテレビ高速インターネットが使用可能。財政の健全度を示す実質公債費比率3.5(県下第2位を維持)。デジタル防災無線整備完成。村制120周年記念事業金主先生の講演と青い風のコンサート。村制120周年記念式典と長山洋子コンサート。企業誘致の駒トリア電子工場が阿知原に完成、稼働始まる。保育料4年間で40%引下げ、義務教育の給食費30%補助決定。
昭和77年	下條歌謡校保存会の結成40周年定期公演が盛大に行われる。下條産100%使用のそば焼酎「竜太」販売。
昭和78年	村長選挙36年ぶりに無投票。伊藤村長6期目スタート。

A scenic view of a park with cherry blossoms in the foreground and a large open field with people in the background. The image shows a wide, grassy field with several people walking or playing. In the distance, there are hills and a clear blue sky. The foreground is framed by the branches of cherry blossom trees in full bloom.

A scenic view of a hot spring pool at Onsen Kariya. The pool is surrounded by large, dark rocks and a wooden fence. A stone lantern stands near the pool. In the background, there is a view of the surrounding landscape, including mountains and a town.

[illegible]

下條村民憲章

わたくしたちの下條村は、下條山脈の東麓に拓けた扇状台地に位置する、豊かな自然に恵まれ、歴史と伝統に培われて発展してきた文化の香り高い村であります。わたくしたちは、この下條村民であることに大いなる誇りと自覚をもち、限りなき明日への飛躍をめざしつつ住みよい村づくりのため、ここに村民憲章を定めます。

自然を愛し、緑と水の美しい村をつくります。

教育と文化を高め、創造力に富む村をつくります。

思いやりの心をもち、福祉の村をつくります。

働くことに生きがいをもち、豊かな村をつくります。

あいさつを交わし合う、明るい村をつくります。

平成元年10月19日制定



長野県 下條村

〒399-2101 長野県下伊那郡下條村陸沢8801-1

TEL 0260-27-2311 FAX 0260-27-3536

ホームページ <http://www.vill-shimojo.jp/>

メールアドレス shimojo@vill-shimojo.jp

発行：2013年 3月

- **村章** 下條村の頭文字「シ」を、大空へ向かってはばたく鳥の姿を
図案化し、中の円は村民の和と太陽を示し、流れるような
線で條を表現しています。全体的な躍動は、限りない未来
へ躍進する村の姿を象徴しています。

昭和47年4月制定



■ 村木／ハナノキ(かえで科)

樹形がよく雄々しい風格に富んだ巨木となる木で、主に下伊那郡西南に自生し、下條村は全国でも数少ない自生村の一つである。芽吹きと紅葉が極めて美しく遠くから赤く花盛りが見える。色と姿は、古い歴史を礎に限りなく発展して内外から注目を集める村の姿を表現するにふさわしく、村木とした。



■ 村花／コスモス(きく科)

花は可憐、庶民的で花言葉は乙女の純潔、乙女の愛情、生命力が旺盛でどこでもよく育ち繁茂する。「コスモス」には「聖なる秩序」「宇宙」という意味があり、旺盛な生命力と言葉の意味は、将来に向かって限りない発展をめざす村を表現するにふさわしく、村花とした。